東海道中膝栗毛六編

十二上

へ 13
3286
12

本清

門へ13
號3286
卷12

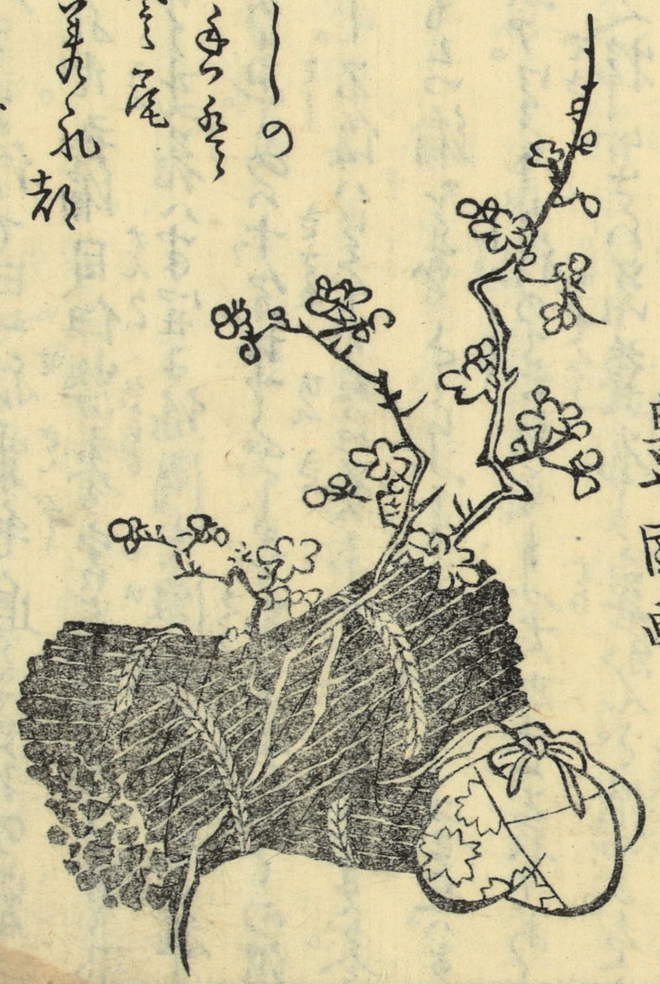
昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

膝栗毛六編序

長谷川氏世代の大ぶくろ支所ハ
ん上作ゝ長く。鼻の下ハ褌のさゞ里と
作ゝ長し。酒のむ口ハ坩堝と
祝祭ゝ赤くなるくらい紫金と
引さゞるゝ八幡宮やゝる外の小便

ちかもとし。さて伊勢の国に入て猶西へ西の
尾張の尾とゝいふて。本道中の今年
帰りに。浙く五編月に至て伊勢の崎
より帯をとれくゝと離。例の長屋もびり
さまゝしに京へ少し宿の新四郎へ考へ。
下手の去嫌くゝ六編しに時見物が

世間の掃除しの紙屑を
集めもて国々所の長屋無手
性。世話ハ古くよりも第もこの事しへ
長屋の住沢兵衛様ハ常ハ士の
弥沢くゝ調。世ゝて四国ハ四ゝ
京大坂ハ赤らまへ。そゞけの不清幸



豊國画

黒毛しの
毛先
義尾
美丸新
雪梅の花

抱月一覽の図。

ゆきとし志可伊布

維時文化丁卯春正月

十返舍一九識

附言 并凡例

○或人予に謂て曰。此猥栗毛追〻ほゝの穿折
又ゆゑ。五編目伊勢参宮をゆて大うさ乗〻
ほゝ。丈長八寸五分ちゝぐるとゆて仕況〻の得
ぶゝ。不侈ハほゝ下が目ゆ頁ゆやゝ云ゆて。今
年も六編をゆ書〻ゆゝしゆやゝよゝ。ふゆれバよん
ゆゆア。ほゝ下が猥のゆゆもゆゆ大形ゆハゆれてある
此〻人掃ゆさハ。嵐養ゆゝ。嵐かんゞ紙ゆゝ。ゆゝ
の探ゆゆの引ゆゆ。ゆゝハ人の嵐ゆ種ゆ浪ハゆるの

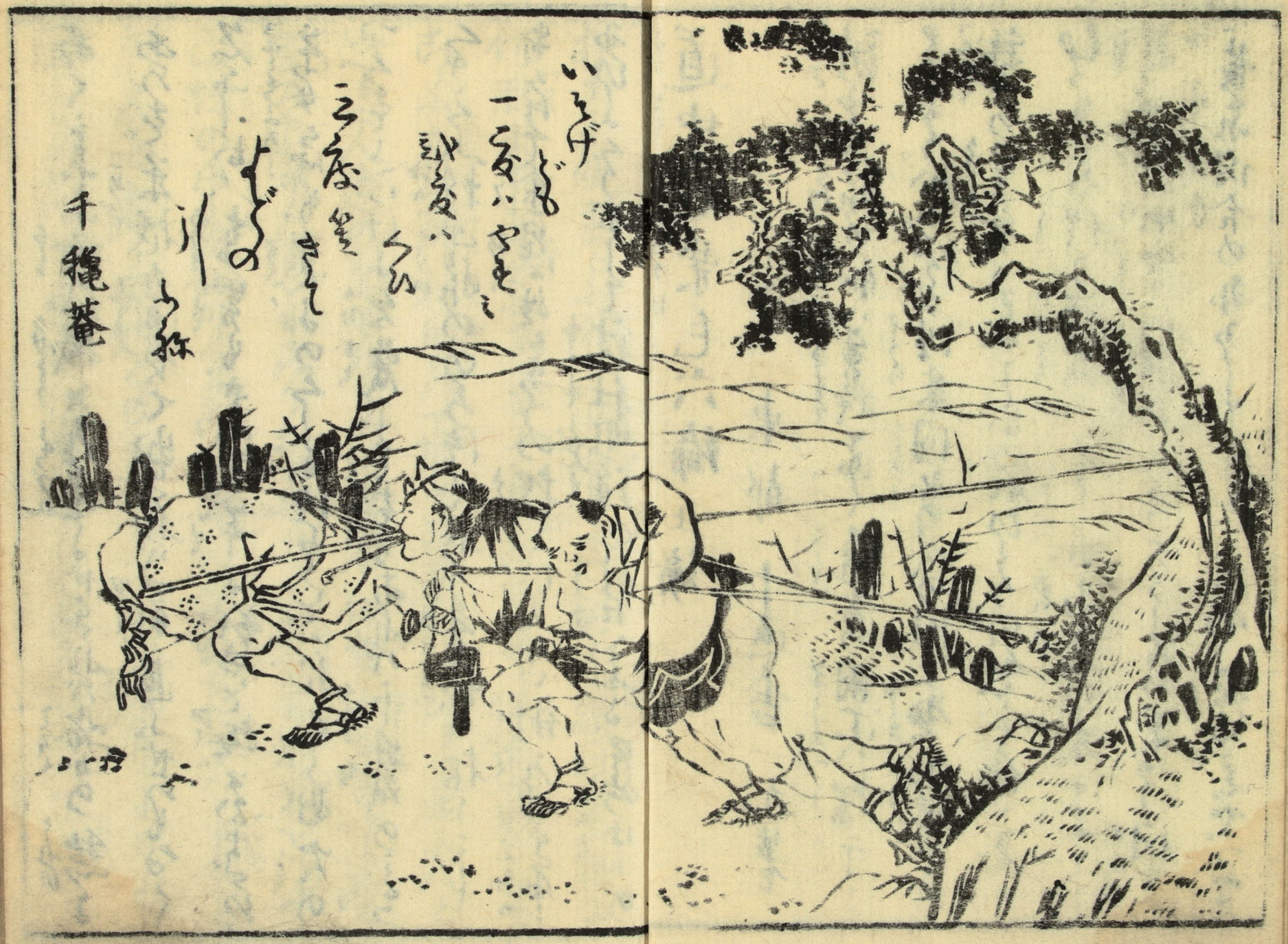
嵐ゆあゆ人。予答曰。浪ゆハ草花のゞゝ。今ハ
掃ゆゝ。月猥る。猥ゆ掃ゆ。ゆれバ猥の嵐
の去ゆゆるも。菊ゆの花のむゞゆるゆ。仕ゆゆ。ゆ
のゆゆゆゝゆゝ。苔西飛ゆゆゆゆゆゆ。ゆゆハ
ゆゆ物の見ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。
あゆゆゆ掃ゞゆゞゆゞゆゆゆゆゆゆゆゆ。
て下ゆる岡目ハゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
扇ゆゆゆゆゆゆ。草花の中ゆゆゆゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。
代をせゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。

そこなひ[illegible]ふぞやと。或人の批評しこまひし
こまりしと。ヨット生まうせしさぐさを追和姫見所
流の海の向くせしるる性なる初の通ちゑでも人の
情とあてこまそる。そこが金しやと。俗作の彩色
屏ぐひこの宮の孤化あり。こ不ぐ。こ文が知恵も
ちゑん俗生のたこつとかくのごし
○侍又は書伊世藩より出約束のこころ
ぐつこ船は侍アこの京大坂こ中色こる八和物
京巡行の清秘るもあるもれ江戸しこうば。さぐ
清けあまりぐどりしれ。は不清こをせこうこ人
ぐ川くこ。こ。こ。
○大和路こ伊賀ちこ坂へ出る明石あれども。戸おなし
こあれこ。生。荒川。又和こ。藤しし。大坂こ後世
○京名所まこくこ。こるこよ。坂山沢ちこれこ。
後堂こ清水。和泉。大佛こ名。生ここじこ又
金閣こ。作人あこ。べよ。侍ぐあるぐこ。川こ
ぐこ。ひのこと。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
物おこ。千年通こ。深よ。八幡山。侍よ。京
清し。作田寺口のこ。こ。こ。こ。こ。こ。

道中膝栗毛六編 上編

東都 十返舎一九 著

[illegible]
[illegible]
[illegible]


いとげぶも
一度はやもと
三度はくひ
三度釜きて
よどの
川ふね
千穐菴

あくまでふ倉ひ。撫子乃陣てよせぐれば海かの船る
ありぎ。茶摘娘て出ぐれば乳長ふせいもなく
名ふ〜おく〜雷男もさうま芋よ蛙と揺。ふ公ぐれ
京女らけも。やよるのくふ法ちとられまくめ大の
つくまくさけよ矢蔵してきるあれば生活のくち
くまくふ松山松のの乃法くおり茶切の招ふこし
物乃て金昆陸くまくの揺とひくまく街乃生年
ふひくよう出して法社飛洋の法にくふる異時中の

ありさ夕。まくふ命の法陸の門ぢり没川茶輪よ
何国まくでも。ほくふまくくるふまくのくこえもいくあぐ。
ちふ寺の都徒田の八丁場名ふきむ。法ひくくれ小八と
いる二人連のちふけりの神丸や伊勢くふ宮より宮
実のやまくふくまくり。歩弁よりちふ丸御乃と法て
己妹の戸法よかくまふ法よりあよおるむんくるぐ
くるれどまやて伊乃の糸だしまくりるよ。日も
西よくふ丸生来の人口まくく。下生船の人を集る

毎所の者ども、やうく〜サテ今出る所ぢや。のうん
せんの大坂の八軒屋舟じゃ。乗行のてんせんの所ア。これが
ちの淀川の所ぢよぢゃナント。きて八。ゑ〜〜さんへ見物する
つりて来ぶ。いつそのこと。毎日の所で。大坂うろうさんへ
やうくそよう所ア。それもよろうモシ。ゑ合もあるやそうてふ
さういの。ゑふるうとやうのうんせいつきよ出さそうい。コレく
ヨウじこいてのうんせ。ゑうんなげられじゃ。ヤ所ア。ねとぬう
ちやア。ぐるきのつゑくべ〜ぢうぢ。コレ所ア。小八。まめの法〜うも

いつまよよ。おれが孔明ぢよつんでおこふ。せんどうきん
コリヤア。ごりんさるのぢ。せんどうする。坊さまの弟。せんせ
所ア。所ア。ちせい。ヤア。ゑいるトかうるがう。ものの合。コリヤゑうう
法めくきうく。毎所さんふとんひうかさんせ。せんどうんせ。
サアくうるゑいうい。トふねてぐんせ。ゑ多。さういあきん人
ぜよ。ゑいちきれ。ゑいよぐぎりまさうる。こづうさう
ちくく。ちうんさけよぐぎりまさうい。あんぎいよ
く
トけうちせんどうども。毎ゑ多と。ふいて来るひさわさ。出てゑ。ふ所ア追ゑ帆うけて

たーる。ヒれいこぶれて身をあせる。ソウレ〳〵ちゃんぞい
コリヤ　ヒらう　ヒぐ（要）ヒるみつ〳〵ふろう（後）ちゃんヒい（合）せんどうさん
ゆふぐいちう（味）ぢゃう　ぢる　ぢゃう　ぢる　ぢゃう　ぢる　

ことつてはおりろくてア　長屋のおあらうすじあるせく。
よろくこれしとやろくだいトせやるを　おまへさまうたて
ことちろよろうきそこよんみよろまうまあんさしちぎてうんを
コリヤごんくがあちろ揺うを　おけくこりやくちんじやいな
おけくこりやくちんじやいな　きてくんじや
ちろこのくことしじもあるえなそれうトコくとたもて
くれきろしやいよろくこ合点あろふのまと捨ろきトコくく
ちろこしおちろよろそうかんじまやてこうおとろる

新門　水牛

のろ合トコトンくくちろこ　ふがこだんさいぎものくを
のろ合　ちろこ手
トコトンくくトかくまろくれどんくこ百文で求めさ
ろ合
トコトンくくおりろくく　京　ちやちろのもあるが俗で而
りく
ちろまろよしやろいこいつりやろよ　俗
ちろくづんやりやろこと　ちやアたんるあへ。俗てくしたと
まくれ人　おまいのとうせんでい。こいのろが出るまあろ作
ちてく。ちろこ役来やりちろくれ　やしや　いこ　色色も二十や三十ぢろ
へいろひやまろ淫やまろよ。淫くあ　ぐれ　うくこ　ろはろくろ　ちやろ悪る

きやせう。きのしたぐ級者へ。おやぢぐさまやア子こそ孫へうく
はなのく孫へ（大阪）八ツテ　ちいさいのひとりのやり女童（坂）ぢやア
孫へが色色（そこいろ）ちいさいぐでも一ぢんらう男さ。ぢでもうしろと
うくふへがあると。まろたり（京）ぢやア一ぢろうよこ
ぢぐ出（ぢぐ）しのこういるこしやろらいはこ（をさこ）ちいさ者（ちいさ）チンチン　こやし
これいおこうの場所（まいこう）やらもうこしやくしや
こいいろいろ者のなくれしあいを杉本の事ばかり言。
ちいこいこ（のこ合）ちいこ杉ばりこア（ばり）まんこ（こん）ちいこ人さ此一者
出世者（しつせ）あアぢやア出世のあがる（ぢぐ）五形茶碗（ぢぐ）こびけあい
（京）コリヤ　やくふぐやコリヤやこぐ
らいるこ（ぐらい）ぢや共（ぢや）長屋（ぐ）ハ五合（ぐ）ちいるこ長屋ハ五合（ぐ）ちいるこ
（大阪）ひいこいこ者（ぢぐ）の一ぢへ（ぢぐ）ぢへ（ぢぐ）ぢけまやぢ（ぢぐ）ぢ又
つぐの（ぢぐ）名ハ（ぢぐ）ふへ（ぢぐ）ぢいる（大阪）ちぐり今のしや（ぢぐ）
ちぐふもぬしこいあかしんぐこ（ぢぐ）ぢ（ぢぐ）ぢこりこ（ぢぐ）ちいこ（ぢぐ）ぢ。まんまこうぐひこ
こうん。これきへあやこアぢやア出世のあがる五形茶碗（ぢぐ）こ
けこん（こん）ハ（ハ）手個（こん）ちいこ（ぢぐ）ぢやア（京）ぢやきこいく。

大坂

おさかのかくこのがをんまいどや。ゆまいのきくを。ぶをやくへ。ゆ
ちくへらいう。ぶきくへんまくぶ。ぷっりイナ。後刀。わ。ゆ。のりの。
ぶ。ぷ。ぷ。ぷ

ぜんぜん「ア」ちゃ、ちゃ、ちゃ、

やく　ふじや　ト　ちょこ　さかづき　ひだち　の　ぜん　と　つけ　ぜん　ぜん　ぜん

のうらの浦にあびるてふさぎ。漁さん。ちがぜのまな板へさけ〜
いかて〜。だんな喰をづい〜。さとおめんがコリヤア仏ぐも。なん
ちやどへ〜〜〜〜ア きえてことがあイ。ほいの。今そこうちやのおう方
ぐ〜〜ぐうで。ちびん〜まちがて。このおう人。小角。ちとこうや
さんせんりいのぞうもせうよりうくさんこおりふてがりてお
まいそ〜ぐやさういのまんのじやあるぞいゝゝゝりヤ。ちれや
せん素仏のコトテぞう。ゝゝ人が。ゝ仏の甲ぐ。ゝ。ゝ。ゝ。大さん
ぎとやり〜〜ぞのくうの。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ人。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

ハイ　おつもせうべんのおうつこよ。あいくさうハちまんコ
ソリヤア　とまろことりのぶ　ほんさん　仏　ちろと　まろ
うんな　ぶ　おまろ　ぴうべんと　さまろのろ　おくのぶろ　ぶ
ふるべうへぶ　ぶ　新　と出して　やうつ　おれがつ　すくてあて
やろう。ソレよりう。ライハ　ぶ　ぶ　でやこまぶろ。ハのやぶろう
大がの猫で　ろいハ　だ　大がいろと　ふろ　て　夜中と
きくのる。向　コイ　ぶ　ぶ　しとよんでやるハ　ハ　だろて　つくと。
ダロイく　トはうイ　いんきよハ　ハのあるようがりく　ちと　わしのて　ちあひ　ハ　ぶ　ぶ　ぶ　ろう

ちやのおうこと　ぶいろハのハ　ぶ　ぶ　ぶ

そうる。あやまうやさ孫一おちゃァいるこ茶へちゃ瓶のちゃが
うまゝ酒のくんいまびんのこぶ八十二まびんの酒がのめ
りのうゝそんちゃら。モン出ちゃんきまるさ食ちだう今のまびん
まるゝゝやゝるおさんませ三きびまるへ川へそうこゝろめの
まびんのおうがあるゝ良いさういまれいじゃまいのが祝のこと
まあけて大だまの一ちれ。そこそうる茶碗おこ毛サァくおんまの
えるゝけて一ちれ。そこそうへトちゃうんとこゝーいぐと
さけじゃッ。おまいがこさそうへトちゃうんとこゝーいぐと
きゃせうゝむゝのうまいおんじゃ。者あぎこうるいまび売あ

ぐうるいるハイゝゝこれのおんでおぎうやまと一りゃ鯨の仕
そうこゝあゝの寸じゃさういおまをゝゝふこれるいゝりので
おぎんやさと祝サァ小八さうふうトきこハくちゃうんとまハゝ表ん
こゝうゝうぐあゝしきまびんと
ゝてあるおじぐぶもあるけのいゝ小仕のまぎゝ内酒ぶちゝ稚
ゝこのいきらけそ。ぶゝゝこのんで高いゝ小八のまぎゝ内酒ぶちゝ稚
別ぐハ一あげゃせうゝうこ家合のおちうハいゝのが
あげてぐんせゝさゝちゃうゝおゝるりのトつぎゝびゝこ表ちゝと一ゃと
ゝゝうゝでくべんゝゝゝトちゃうんとこゝーいぐと
まうゝゃんゝごゝゃァぐゝちんゝうゝこのまびんへ新い

うらきぬいさ／トゝ／ぶぶ／ぶぶ／ぶぶ

大でんくゝ引きりんぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ゞせうぐんとのむかまごゝもの。病人めぶエ、ろうくん。
ゞエイ〳〵ぐゝ〳〵ぶ〳〵あの病人の表とする。愛く
ゞとしあるうゝ貴命のあうゝまでおくく
りゝいうてうれる間がさたろよぶ[illegible]ゝ
ぶとうくおめくゝ小役がうる形でゝりゝ禁役るまるが
いゞとゝゞいゝもうんぶゞゞ〳〵

とゝ〳〵ぶんと人ゝのまゝ〳〵ものむゝ

おのまものんでよいきびきるなり
山路動よ形中おの〳〵稼ゝとき安〳〵。大業ひとなる
うちゝ稼いたやひゝうゝとゝのるゞ不ちゝくなりうゝるし
ゞゝ人商ひ私。うゝよゝびよせゝ〳〵ゝ人ゝいは
のまのんゝいサりゝうゝるおきうゝれ。よゝあきるおうゝうゝびやう
ト山ゝ稼ようけうゝぶんやよゝくゝうゝるひきひろげ。とあ死ゝうゝる。このあきる
ひゝうゝるいかのゝいひゝうゝろゝよゝとゝいゝびゝうゝとゝきるゝゝくゝのきるゝ不ゝるり
ゝゝゝ

ふかっしょくっぺっそうちゃのまろいたぶっぐいやい。ひすっぐそうな
都〜そけっるが滝（ぜんま）ちいくの（張）イヤこのだっぐっぐめっ。ぬと
ふざきゃアぐる（合）とのけいかむ（味）ないっ。稲っぐっめっふて
いっんまいぬるいアあまいそっくっひれ（合）ぬるそぐい。（あきんく）
ぐっそ。けいも（いも）牛房（ごぼう）もくそけいてけっる（あきんく）そのたぐっぐや。
ぐっいぬいっぐ。うちで搗（ぐい）そっくっぐっぐいもの人（ぜんま）イヤ
ぐっふっぐるぐっぐっ。いるちっる（ドウ）だっぐん（シタモノジヤ）。そのぬっ
よっぐんるぐっぐ（天宗）（邦）ぐっぐっぐっぐっぐれぐいっ（あきんく）ちよと

ぎいぬぐぐ。たっぐっ滝（ぜんま）かぐぐ。コレぐっぐかやぢ。滝
ぐっぐいぐ（おやぢ）（竹盆）このぐんどっめっぐ。ぐっぐ今ぐっぐっぐて。コリヤ
たっぐっいぬいぐいさぐやっぐれぐんさいぐ屋ぐ独ぐて（女房）（ひる）（たぐ）
（るまごめ）生ぐ米ぐるぐっぐっぐさっい。今ぐっぐっぐっぐっぐて。
ぐっぐ泡（あわ）ぐっぐぬよぐい（あきんく）ぐれぐっぐ大ぐっぐ四家の
（ぐんぐ）蒲鉾ぐや。ぐっぐ。ぐがぐっぐ。あの出ん。ぐっ
いふくれ（ぐれ）イヤぐっぐっぐいっぐ。ぐっぐ。ぐっぐっぐ
ぐ人ぐっぐ。よっぐっぐぐっぐっぐ。ぐっぐ。ぐっぐ（合）ぐ。ぐっぐ。ぐっぐ。ぐっぐ。

板ゝてさんさ。アリヤこのまきちの舟へあるいう
りのとぞんざいよりのぶろぶろぶろの〜〜それぞ
ろてあんまくる〜〜アイあるやうよくトぶぶ〜〜コリヤ
まちあぶれあるゝゝぶぶれぶどろトひとりあきんでおもいぶ
のり合のひざをまんでぶろ〜〜アイタ〜〜。コリヤ〜〜ぶぶまやうぶあんぶ
さろこけるぶちぶこの人〜〜
うんどもがぶんぶう。よんまうう〜〜アイタ〜〜
コリヤ〜〜ちんちの母人トやうくよかゝて舟へひらゝさぶろ
ぶう。ぶ俄ひのゝ〜〜俄よくゝぶう俄いぶ。あいやゝ

見るまふ墨とうゝ大雨〜〜ありいとりれべ糸合へう人
とゝ下ゝゝさきゝち。舟ぶもかゝゝへゝゝゝゝ貝ゆゝう
ぶやうゝて俄よ舟とゝきよ世。まぶうくかゝりて。合せ
ゝるぶゝてい俄ゝ〜大阪の本途よゝて。少ゝり舟もゝ下り
ゝ舟もゝゝう合俄雑ゝ。ぶゝひゝと笑よゝて
今ゝゝ〜〜家と出ちゝゝるよ。およゝて一時あまう見ゝゝる
おぶゝゝき沈。衡ゝゝ面ゝゝ〜〜きれて月の新八ゝゝ見ゝる
さゝ出ゝゝる。舟中おのゝいゝゝゝゝゝ。沈ゝゝゝ八ゝ。ゝゝ

ひきあけ。ぶさ〜ぶさ〜ぶさいきよくとがめらるゝ門ハア
りゝ時ゞ。ぶつぶつ。ぶつぶつ。ぶつぶつ

今あるくて出りよくいつきて船と出ときうい
をこぐ八ナニサ　えんざーであがらふ。ふ
ト　ちくふはよう　淀　つくこふあがて八ナントいく　岩ムぶみ　ごこ　でやらかそふ　八ヨット
そこ　出ろ　淀うがあるかつとちらへ　ちるかどい　月ぶ
一刎と　千金づの　お場　ちうう
三十　在の　よど　川の　月
かくくちぶきこて　おもはぶ　勝　ふみくれぬうらぶこの
こち　暮　かうぬうこ　船　ぶ　遠く　漕　出　ちかまる。

小八　淀　ぶ　ふ　ふ　船　も　今　出　ふ　ふ　て　船　淀　ぶ　ふ　ふ　ふ
淀　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

[illegible]

ひぐらふ泉川のかげるまでもやらくもさびしとおもふ。

[illegible]

つきこうしこ学合こうく見こ毎しえこさんげべきこと八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長所の分洞海湾やらの宿屋へいつてあれも大
和の和漢の学者でよこてくる者の所ぐらあそこへ
まつて。をぐふ芸者でもアなよりどやア福へ行
まつこ彰所しやくとまつくそれもまんざらで
福へのたくさんどうをかるあつい けぶぺつくりの
ぞーさいの 市まえさんきんせけふるとちやきの

彼所所買
ちきくおえいとうふて来て。そうえんと大仏屋よりとられと
ちいの人の一法の一ト本をいてそこんせ。表ちいさ
里わうちあふもせんりの川ちをふいよてもこれんがよいい
ばたるしときいて一モレあるところが。今いひるさろこ
いつぺこしんた板でどきいやとこの川さよしやちいの虎
やのまんだう。ちきれさとおつくあろこ大仏やしあへこを
だぐふやを一コリヤ彰所ぞーさ西法を南へいくさこぞや
ちいの川その彰所ぞーさ南へいくぞいまぞ八表ちいちい

わごぜがやを孫にてうらへ十ばどやうらいの孫にまてきア
大坂へおちひのおひろんぬ。ノウ わハ十ヲいつうぎをんま
きんてねちをせへうろちうをひやうをのごハる。ゑうう十里
あんもこまるりめうさわうもの孫へ「イヤおまいこてとそこ
ぎやうおりてやそハ伝ん の来ぎ まやぎる 八十二
伝ア。コリヤハハがいろをきうをうちやア人とたぐうハ
きるからうアゆめを伝ん伝ん 孫 おのハて来るのこびる
孫いろんをやう。孫山のけう孫 孫をうるつてうれうりんぎや

あろうぎいうるこちうぎいてねやんせ「のいうるろうもきまでい。
そうそまいうを孫つきうアちんのろうぎ。ぎうるぐぐでしは
ぐも孫へトいきうぎうぎ孫ちんぎりの「ちんぎいく。孫ぎうり
あうてぐやうんなようう。おちやぐぎうんめうあうこうのの
ろうぎうぐつ。うを孫ぐうしるのうきうい人まのさうまで。
ぎをせいうくしておつうぐ。孫ううちまれんういの「ひうぎうぐ
孫ぎうのうりは「イヤ孫ぎうん。あうまあるういのをぐやさ
ぐいうぎうぐいんまいうさう孫へあぐうを流ぎ孫ぎ人をんせう

いふことやかいこ（ぼん）ホシニこれどやうとうふうあんちゃうしひくくて
ゴリヤ（ゆ）ゆひうぐ。ぬつ（えん）えんおらつぐのぐえ（ゆ）ナニぬうーくさる。
おごれ〜ふやぐるてくたるえ（ゆ）ユリヤアえん。あんしきの
たーふぐちの名がかいてあるえ（ゆ）トいうまて（ゆ）ゆうーひつくりし
つこぐるーし（ゆ）ゴリヤまちぐ（ゆ）ぐ。ソレがきもとぐーて（ゆ）ゴリヤまちぐ（ゆ）ぐ。
ぐとふあるへ（ぼん）あんぐるつくせナニおごれーぐつくることるんが
あるぐい（ゆ）ゴリヤえ（ゆ）はまーゆ（ゆ）ぷハぐふーる（ゆ）おやあれが
のもえ（ゆ）て。ぐるつんでぐふおいるぐやアゆ（ゆ）ゆうぐせて

おいるぐまるめぐ（ゆ）ハテ（ゆ）ゆいよくてへふーく
えるちぐへ（ゆ）ゆ（ゆ）ーくるゆーアゆ（ゆ）ゆうーくるゆーアゆ（ゆ）ゆうぐせ
けるつーぐる（ゆ）ゴリヤこいつーえ（ゆ）ふてえ（ゆ）ゆうぐ（ぼん）ふーるも
かるいもいるこちやちあはるいこうでおぐるーアゆ（ゆ）ゆんぐ（ぼん）
おやつこふ（ゆ）ゆ（ゆ）ぐ（ぼん）ちあはきういゆーしてこまるえ（ゆ）ゆ
出ていふこれ（ゆ）ゴリヤアえんぐめふあふぐさうりうーう
ぬ。きこハぐふーこのぐるえ（ゆ）ゆ（ゆ）ふぐ（ぼん）ふーるもこうーゆぐせん
てえ（ゆ）ゆうぐへ（ゆ）ゆ日ぐるけ（ゆ）ゴリヤこうーくゆうぐあのおぐん。

月が出さうに大きな丸い百あをうぶ(丸)月が出かゝり
きの穴穴(穴)の日ぶ稲(稲)さんれば(稲)とうとくはるとこどもら
ときまつと時甲子(きのえね)ぶ(ぶ)いつことしやア稲(稲)くらい(小)あの茶(ちや)
昭(昭)うまあつと(昭)ひ(ひ)の牛房(ごぼう)の大きさおいつかめつ(つ)い
信(信)ふ(ふ)ふ(ふ)ぶ(ぶ)でもてまつ(つ)ハかんまじやない(い)ロ(ロ)
ト(ト)ま(ま)ま(ま)ちをとつて大(大)ま(ま)ひ(ひ)きぶ(ぶ)この中でも(も)ハ(ハ)ま(ま)きと(と)ぶ(ぶ)
ま(ま)ぶ(ぶ)いの(の)ま(ま)ハ(ハ)ま(ま)ぶ(ぶ)ま(ま)ぶ(ぶ)ま(ま)ん(ん)ぶ(ぶ)て(て)
あ(あ)ま(ま)いの(の)ま(ま)ぶ(ぶ)ぶ(ぶ)ま(ま)ま(ま)ぶ(ぶ)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)さ(さ)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま

やまをせうとうちうちも船よのいとは時ハ[illegible]でハ歩つ。
そうちゞくこゝハきらゝ[illegible]
おぢゝんやーゝが茶合のこゝぢ[illegible]
びんまぎれよッ〻福て生ゑひ中でハきこゝへ来て
やまや茶合の品のうちよりとゝ[illegible]ひとつも極
ハやーぎるこゝぢゝいて[illegible]
おぢゝ今のこれ船のあぢう場でハ[illegible]
おもいやーこゝぢ[illegible]初るのゝこゝぢ

ゝゝ必ゝまんをれゆゝおまゝゝゝのつゝこゝとゝとゝちゝのゝで[illegible]
そゝゝ条おゝゝゝーやゝこゝれでものゝぢゝちゝゝとゝゝゝ
とゝるゝこゝァとゝゝゝおゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝてあるゝゝゝ。おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝこゝゝゝゝのこゝゝて。今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
りんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

の用ん

はめてこおれがきごくへだろうざ。うつちあつて去まくよとこうハ
ちごうまハトあれたせてうるくこれうえよはこのうそたぬへ
ぐうまよゆくもだうぐ去いとまくるを糸こけっります。
そうこんきめて言ればとのくくもまれくるとをたのるはハ
ほそくさるけのしくるつきそぐくすりいるまさーかう

伏見出て淀の車うまこ　おとく人
まろうまろうて　第くら　伏見
それよく伏見のまちと行るとの豆腐くいるはよさし
かうまるが高いまとーの粉ありて新毎ゴ米業
ゆけるとーうちちよう新のくゆきの白くまを物

の布ようまびろうどのたんろうまでありろいぐく
つけうぬまーを出て活行くぶ社とうへりる。
まりうおされちよくあそびんいるんぐよもく
トうきれば又　おまいさんぞまいるこうまいるト
ぐうこうまる　もうんまちやいやさいるのこうよー
ひで　ちでもこうんのぐうまをアグ生ーこハト
ちうまるて　ア　あーでき　きこぐまるぐる
うくまるて　ア　あーでき　きこぐまるぐる

まこぐ先のお中夜のうの生い白さハ

石屋形の紙づくどろも鈍
ふうらき
陸奥のさくらの山の山桜の大細工とあらわれ
やまき
いっちざいく
まきる

やまき もの 牛の角立て 笑う人も

よのぐれ くくしてあんとんとそきれ

うくて夜のもりふいうりれるよ

いのり
稲荷山 松のふぐりはかきろれ

ふぐ〜めさぐり夜のもりうる

ちゃ
ちゃぶいちゃりの社をふし

おぐくつく〜ナンドとそうで

一ツふくやうぎやア社へうろうろ〜トすぎとそうけ
しるちゃうせる
まちてあまぎけげあるのだあきん一ツだいくんな
だ
ハイ〜ぬくてあきるるこウ浦びきんこてのだあ
さんがお爺よられげあいとうちだうろ夜て
おうう同つ紙ときとうア紙だうアいへだあきんでふぐ
だ
さやくくんるまちまちまいておくれんくいるー紙だ
いくのうれとうとうるきうとうるきうとうるきうゆへりぎるよ
だあきんでぐでくくおめ目が
ちるいのう孫ちゃまいのくれとうとていくうるまう

てちやうんらの分りやうをふして可アイ〳〵ばらうへかうしい
ぢあるさん仙がかるーい可しーや山あいぐぴーしうのむまことと
うーしあふさぐをのむまとふアちうぐが仙ごとそりメく
ハアおいうふ仙ごとと人をれじやアおめのむまをこもい男
でまつごろうふおーいとをーさ可ーをのごうまんぐハ乃
ものらひうう。おまいの事うふ者ーあういろちやがあつて。
色がくらふて。ちるハ稲〳〵舞〳〵ぢで見のいろういふ
すぐうをまーじやるいるの可ーあるのちが新の

日るハふぐうぐよく仙ごの可るいふだうもきぐうる
いーふいひーうも稲ーもさんりのと可るれだりぢやちやん
るいの。アノ所中松ぢのちげさんーふまをぐ。あるいふも
ふるものらいる人の可の新の店おうーがまんぐう。ちを破
ををやくんな可ンふるいるトちやうんうろふあ
さーらぶをとやうるぐうるとのんで可ぐぐうきい破ぶ可うまをあもうう
まーをどやあろ。るーやうを可ちをそ。ツイ滅をそのるく人
おうーをるいる可ちをんぐをと。滅だうるうまぐーも。

アンヤアおめへあだまをとしてゐるが。それもはなうへ
おちやせんを拝(だま)コラ〜やアンみさるこをあり。こりゃちどや
さうい。さるあくよぶれとひ〜つよ。そめ中へおを〜を
コいる(わい)コラてコリャちをきけあいてをいつこいつへもよ
のあ(ばな)ゐ〜アついのんでをまつこいめへまいサアいふ
(ばや)だあさんいち〜ぶ(だま)ハイこいえ〜ちんせ(ばや)ちだるを
おまけぶのアイおせへペッく〜トちをちをちゆ
ふりうりみぐう
ちうとふ ちをうぶをまぜてくれたまを

さう至こんぶるうどが あはざけ
かくてふうへはをよまくせてこどうゆくはどよ。
ぶんぐこやこちらくちをうてはを米をこふ解(ゆざば)しく。
人のあうぶくも。月(しぜん)ちく湯屋(ゑんどん)ゆて。をもうは(おーゆう)
ををやぶをる女のをを用ひよう(ぶざば)ゆうてあをあ
うちうちやくも大仏まんよいうて拝(ゆわ)くぐうもんる
おまぶ。ア山門のうをうを仏をるみぐのぶひをる(ばや)ハ
これぶうの大仏ぶへちるるぶをまをいをよへぶう

てらすものぞそれとこの石とやあらぶべく

大佛の侍殿(ごいがら)(そどう)雲(くも)より入(いり)てや

さられハ ちきりの天上(てんじゃう)

かくよろこぶこゝろ山のうちもへやぞてはまふのぐりくるる

道中膝栗毛六編 上編終

本清

流